

1. 府中市の生涯学習推進計画
2. 特別インタビュー
「生涯学習センター」森館長
グループ紹介
「悠学の会」講座記録グループ
3. 生涯学習 この人に聞く
「國府よさこい」代表 堀田さん
4. ふちゅう東西南北
北多摩一号水再生センター訪問記

企画・編集:
府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」

府中市生涯学習センター 生涯学習 だより

令和元年度から8年間の

生涯学習の道しるべ

第3次府中市生涯学習推進計画を策定

このたび、府中市は、令和元年度を初年度とし令和8年度までの8年間を計画期間とする第3次府中市生涯学習推進計画を策定いたしました。

本計画は、第6次府中市総合計画 後期基本計画の文化・学習分野に掲げる「人とコミュニティをはぐくむ文化のまち」の基本理念の下、平成17年に府中市生涯学習審議会が提言した「学び返し」の普及と拡大を基盤として、基本目標を「みんなが学び 地域に返す 人と地域がともに育つ『学び返し』のまち 府中」と設定いたしました。

今後は、この基本目標を実現するために「学び返し」による地域の教育力を基盤とした市民協働力の向上を目指し、3つの基本施策を柱に、市民・地域と協働し連携を取りつつ、本市の生涯学習を推進してまいります。



基本施策【1】誰もが学べる環境づくり

- 施策① 新たな参加を促すための学習環境づくり
- 施策② 多様な市民層に合わせた学習環境づくり
- 施策③ 気軽に参加できる学習環境づくり

基本施策【2】誰もが活躍できる環境づくり

- 施策① 生涯学習と地域還元をつなげる事業の実施
- 施策② 生涯学習を地域づくりにつなげる人材の育成や登用
- 施策③ 市民が活躍できる場の拡大

基本施策【3】生涯学習を支える基盤の整備

- 施策① 生涯学習の広報の強化
- 施策② 施設と事業との連携
- 施策③ 生涯学習の推進機能の充実
- 施策④ 安全・安心に利用できる施設の環境づくり

府中市文化スポーツ部 文化生涯学習課
(冊子希望の方は文化生涯学習課まで)

今年もやります！

9月7日(土)8日(日) 於:府中市生涯学習センター

「第26回 府中市生涯学習フェスティバル」

楽しもう、みんな集まれ!!



市民参加で毎年好評！

- ・市民作品展
- ・市民発表会
- ・ワークショップ
(体験教室)
- ・サウンドフェスティバル



楽しいイベント満載！

- ・子どもサイエンス
- ・紙コップタワー選手権
- ・ミニホース、小動物とのふれあい体験
- ・鉄道模型展示
- など



特別講演会も開催！

「動物園の 新しい楽しみ方」

講師：田畠直樹 氏
(元多摩動物公園園長)

日時・場所：
8日〔日〕11時～・2階 講堂



生涯学習センター 新館長に聞く

利用した経験を活かしたい

この1月から、府中市生涯学習センターの館長に新しく就任された森慎吾さん。森さんは浅間町にお住まいの府中市民で、センターの利用者でもありました。そこで、森館長に、生涯学習センター運営にかける思いを伺いました。



— センター運営の基本は？

学校以外の学びの場所として、市民がいつでも誰でも利用できる環境を提供しています。宿泊施設などもあるので、センター全体の安全と衛生を重視した管理・運営をしてまいります。

— 学習事業の運営は？

府中の中心地からは離れているので、それを克服して、且つ、多くの方々に来てもらえるような、親しみのもてる対応と、魅力あるイベントを実施したいと思います。



講座では、皆さんのが興味を持てる教養や健康関連などの座学を行ない、そしてそれを実践に移れるようにする、そんな組み合わせで企画してまいります。

— 府中には

いつからお住まいですか？

もう22年になります。ですから、センターには図書館やプールへよく来ていました。うちの子供たちも小さい時からお世話になっていました。

— 館長の考えるこれからの学習センターとは？

利用していた市民の目線で、常に運営に当たっていきたいと思っています。

インタビューを終えて

最初は、大柄な、見た目はゴツツイ感じがしていたが、話すうちに趣味の話題となり、オーディオの話やギターを演奏するとか、趣味人としての柔軟な顔に変わりました。

(記：鈴木禎治)

悠学の会 講座記録グループの活動紹介

冊子を手にした達成感が一番

グループリーダーの井戸久和さんに、日頃の活動や苦労話をお聞きしました。



講座記録グループは、第8回府中市生涯学習フェスティバル特別講演会において、村野晃一氏が講演した「詩人・父親・村野四郎」を2003年（平成15年）2月に刊行したのが始まりでした。これまでの成果は20冊を数え、今後もこの功績は決して絶やすくないようにしたいと考えている。

冊子化の作業は、概ね右の作業に分類されている。これらの作業を経て、約1年かけ冊子が出来上がるが、各自の得意分野を活かしながら、共同作業に責任感を持って取り組んでいる。

作業を通して、異業種であった人たちとの交流、会社人間にはない付き合いができることがボランティア活動の良いところではないかと考える。



冊子第一号の「詩人・父親・村野四郎」と最新作・神田紫さんの特別講演会 記録

冊子化の作業工程

- ① 冊子化の検討・選定
- ② 分担して録音の書き起こし
- ③ 集約した原稿の校正
- ④ 冊子の組み立て・割り付け
- ⑤ 講師による校正
- ⑥ 印刷原稿の作成
- ⑦ 本文の印刷
- ⑧ 印刷後の点検
- ⑨ 製本（外注）

また、本文の印刷や装丁前の点検などの作業では、ワイワイ、ガヤガヤと話が弾む。これぞ皆が望む時間ではないだろうか。完成した冊子を手にしたときは、その作業が苦しかったほど達成感と喜びは倍増する。これからは、我々は愚直にアナログ作業を継続し、これまで受け継いできた小さな冊子作りを心掛けていきたい。

現在の会員数は5名ですが、この有意義な作業に取り組んでいることがグループの誇りです。新会員募集中。ぜひ、ご参加お待ちします。

生涯学習 この人に聞く その(18)



「よさこい in 府中」を第1回から支え続ける 「國府よさこい」代表 堀田 明子さん

夏のけやき並木を彩る「よさこい in 府中」、今年も8月24・25の両日開かれる。今ではすっかり定着し盛大なイベントになっていますが、その始まりから自らのチームだけではなく、広くよさこいの指導・普及に努めてこられた堀田さんに、いろいろとお話を伺いました。

よさこいを始めた頃の周りの反応はいかがでしたか

最初は反対もありましたね。府中には例大祭があるじゃないですか、よそのものを持ち込んでどうするんだと。でもあのお祭りはもともとは男のお祭りなんですよね、女のお祭りがない。女性や子ども・年配の方が気楽に楽しく参加できる祭りがあつてもいいのかなと思いました。そこで、並木通り商店会のチーム「國府よさこい」を立ち上げ、商店会の夏祭り・並木祭りで初めてよさこいの演舞を披露しました。2005年のことです。

翌2006年には、各商店会の共通のお祭りとして「よさこい in 府中」をやっていこうということになって、第1回のお祭りの時には多くの人が集まり、「実行委員会チーム」というのを作って祭りに参加することに。このとき作られたのが、府中をイメージした新曲『風と緑』とよさこい版『府中小唄』の2曲で、以降数年にわたり、市内各地に踊りを教えて回りました。

第1回が終わった時、主なメンバーに「あなたのチームを作ってください」と声かけをしたんです。それで魁星さんやたましんさん、府中公園体操会さんなどのチームができ、回を追うごとに段々盛大になっていきました。本当にありがとうございます。私たちの國府よさこいも14人から、今は80人までになりました。

新しい踊り手を集めるのは大変では

初めのころは、各文化センターで「体験会」を開いたり（下は当時のポスター）チラシを配ったりしました。今は、やっぱり人だと思いますね、人が人を呼ぶ。よさこいに真剣に取り組み楽しく踊っている姿を見てもらえば、

あの人と踊りたい、と言って興味を持つていただける。それが一番ですね。

また、新しく入った人に先輩が「大丈夫、初めはみんなできなくて当たり前」と声をかけることは大切ですね。初めの不安がなくなれば気持ちよく練習に行くことができます。お互いに思いやりを持って、みんなが健康で一緒に踊れてこそその演舞ですから。

私は、小学校にも教えに行ってています。直接勧誘はしませんが、将来踊り手になってくれたらなと思います。

★「よさこい in 府中」とは：京王線府中駅周辺の商店会が共同で始めた「府中夏祭り」に、2006年からよさこい鳴子踊りをとりいれた府中の新しいお祭りです。よさこいソーランの登場で、当時注目を集めていた「よさこい」を、商店会幹部が本場・高知を視察。その熱気と街の盛り上がりに感激して府中でも始めることになったそうです。

自らのチーム「國府よさこい」を育てていくために大切にされていることは

「よさこい」って形や技術もそうなんですけれど、それ以上に心・思いが表現されていないといけないと思うのですね。練習は真剣に、本番には思いっきり弾ける。そうすれば踊る自分たちも輝く。メンバーが輝けばチームが輝き、「よさこい in 府中」が輝くと思います。そして、見ている人達にも楽しんでいただける。だから、思いを伝えるということが大切なのだと、そう思って取り組んでいます。

代表としての私の役割は、そうした思いをメンバーに伝えること、今年もまたチームのみんなと踊りたいと思ってもらうことだと思います。楽しいから練習に行きたい、仲間と一緒にいたいという気持ちになってもらうよう、和やかな雰囲気づくりに努めています。

それと、チームを立ち上げたときから声を大にして言ってきたことは、“家族に感謝”。家族の理解がなければ続けることができません。よさこいを笑顔で踊るように家族にも周りの方にも感謝と笑顔で接し、いつも気持ちよく練習に送り出してもらえるよう普段を大切にしましょう。

堀田さんにとっての生涯学習とは

生涯学習といえば、私は4歳から日本舞踊を習ってきて、今は若柳流の師範です。市制60周年の舞台では、高野市長さんとも一緒に踊りました。それと、頑張って取り組んでいるよさこい。これには生涯関わっていきたいなと思っています。日本舞踊が、今、よさこいに役立っていると思えることが幸せです。

具体的なことも学びなのですが、日々の出来事にときめいたり涙したりすることにも、いろいろと学ぶことがあります。それこそが生涯学習なんじゃないかなと思いますね。

<堀田さんの生涯学習>



取材中、どんな場面でも堀田さんの熱い思いが感じられ、ぐいぐいと引き込まれていきました。よさこいのお仲間が、堀田さんと踊りたいと言われることがわかります。もっとお話を聞きたい、そんな気分になった取材でした。今年も「よさこい in 府中」が8月24・25日開かれ、けやき並木や各会場に踊り子の笑顔が弾けます。是非見に行ってください。（取材：西谷・井口）

ふちゅう東西南北

お世話になっています！北多摩一号水再生センター

朝起きてから夜寝るまで、絶え間なくお世話になっている水。飲み水には関心をもっているものの、下水に関しては無関心な場合が多いようです。今回は、そんな汚水とされた《水》の行方を追って、小柳町の「東京都下水道局 北多摩一号水再生センター」を訪ねました。



北多摩一号水再生センターは、1973年（昭和48）に運転を開始した下水処理施設です。担当区域は、府中市、国分寺市の大部分で、新小金井街道の地下にある幹線下水管を通り、各地からの下水がセンターに集まります。その後、沈砂池、第一沈殿池で土砂や大きなごみを取り除き、反応槽で浄化します。浄化の主役は微生物。下水中の汚れを微生物が分解し、細かい汚れも微生物に付着して沈みやすい塊になります。これを第二沈殿池で取り除き、上澄み（処理水）を塩素消毒して河川に放流します。近年は、東京湾での赤潮の発生を防ぐため、窒素やリンを除去する高度処理施設が導入されています（図の★印）。

想像していたより広くて清潔感のある下水処理施設。臭気も少なくて、定期的なメンテナンスが行われているのでしょうか。スタッフの方々のご苦労に感謝です。

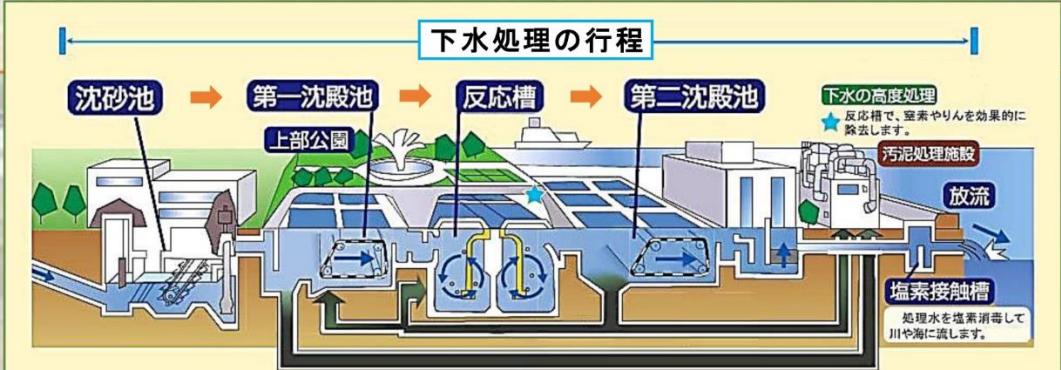


《悪臭がな～い》

見学してまず驚かされたのは広い敷地。その敷地内に沈殿池や反応槽。ひと昔前までは周りに臭気が漂っていましたが、その臭気も少なくほとんどしませんでした。

また、高度処理施設を経て多摩川に放流される水はとてもきれいでした。川崎に住む孫がアユの稚魚を放流していますが、施設を見学して安心しました。頑張って遡上することでしょう。

（井口文江）



北多摩一号水再生センター パンフレットより(一部変更)



《汚水すべてを再活用》

この施設の特徴は、生活環境汚染で問題になる化学物質を使わずに、生物の持つ働きを最大限に活かした地球上にやさしい汚水処理をしていることです。

私たちが、毎日当たり前に食器洗いやトイレで流す汚水。その水が浄化され、残滓が最後には褐色の焼却灰となります。さらにそれが再度レンガやセメントの基材の一部になって再活用されていることに驚きました。（柴田洋子）



《個人の力は小さいけど》

多摩川が、鮎の住める程きれいになったのは、科学や技術の進歩のおかげですが、中流域では、水量の半分は生活排水を浄化、放水した水だそうです。私たちは、前にもまして大量の水を使っていますので、このまま使い続けていくことの危うさを感じます。また、大量の雨が降った時には、通常丸一日かけていた浄化の時間が充分に取れないという課題もあるそうです。

個人の努力は小さくとも、環境、自然、社会のために、下水にも関心を持ってかかわっていきたいと思います。（山田詩子）



《微生物に感謝》

あんなに広大な施設の中で、汚水浄化のため微生物が大活躍してくれていることに「意外だな～」「面白いな～」と感心しました。また、かつての汚れた河川が、今のように浄化されるまでの研究、努力についても、思いを巡らせてみました。ありがたいことです。（中井博子）

編集後記：令和の始まり。これから社会では、新しい知識・情報・技術が、あらゆる領域で重要性を増すでしょう。時代の流れは変えられませんが、まず自分から、そして地域の仲間と一緒に、人生100年時代を健康で楽しく心豊かに生きることを目指したいのです。「生涯学習だより」がその一助になることを願っています。（奥野英城）

企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」
共同発行：府中市文化スポーツ部文化生涯学習課

ふちゅう生涯学習センター共同事業体
府中市生涯学習センター

〒183-0001 府中市浅間町1-7 Tel 042-336-5700
ホームページ：<http://fuchu.shogaigakushu.jp/>